

8805 二十代の前半、今はなき六本木の・・・

二十代の前半、今はなき六本木のミスティーに何度か行ったことがある。そこで歌う女性ボーカリストの姿を、私はうつとりと見つめていたものである。

彼女たちはまず水割りを飲む。飲みながら、常連らしい客と楽しそうに言葉を交わす。そして、ピアノ弾きやジャズメンと顔を見合わせてにっこりする。それからやっとおもむろに喋りだすのだ。それはたいていかすれ声だった。

「みなさま、よくいらっしゃいました。ミスティー、第三回目のステージ・・・・」

林 真理子『ブロッサムのように』

〔許容訳例〕

In the first half of my twenties, I went on several occasions to "Misty" in Roppongi--now no more--where I would gaze in rapture at the lady vocalists who sang there.

First, they would drink a whisky with ice and water. As they drank, they would exchange cheerful remarks with what seemed to be regular customers. Then they would exchange glances with the pianist and jazzmen and smile. Finally, they would slowly start to talk. Their voices were usually husky:

"Ladies and gentlemen, welcome to Misty! We now present tonight's third performance..."

〔翻訳例〕

On a number of occasions in my early twenties, I went to the now defunct "Misty" in Roppongi, where I would sit gazing enraptured at the female vocalists who sang there. They would start by having a whisky and water. As they drank, they would exchange pleasantries with what I took to be regular customers. Then they would catch the eye of the pianist and jazzmen and smile. Finally, taking their time, they would start their speech; their voices were usually husky:

"Ladies and gentlemen, welcome to Misty! We now present tonight's third session..."

■二十代の前半、今はなき六本木のミスティーに何度か行ったことがある。(8805)

★「二十代の前半」は、in the first half of my twenties でも間違いではありませんが、普通、in my early twenties と言います。

★「今はなき」は挿入的に使って now no more でもいいですが、一番よく使われるのは the now defunct です。defunct は人の場合なら「故」、物の場合は「すたれた、もう存在しない」という意味になります。

★「六本木のミスティー」は "Misty" in Roppongi です。

★「何度か」は several times か on a number of occasions とか a number of times です。

★「行ったことがある」は I went…です。今はもう店がないのですから I have been to…は使えません。日本語の「ことがある」は「(現在にも関わる) 経験」を表す場合と「～の時

期もあった」という意味の場合があります。ここでは後者です。

■そこで歌う女性ボーカリストの姿を、私はうっとりと見つめていたものである。(8805)

★「女性ボーカリスト」は、普通、female vocalistと言います。ここでは「何度か行った」のですから複数ですから female vocalists です。なお、the lady vocalists も間違いではありませんが、避けた方がいいです。アメリカでは開拓時代の名残か lady を使う傾向があります（たとえば、映画の中で女性を殺した黒人が I killed a lady. と言うのを見たことがあります）が、どんな場合にも lady を使うのは、ちょっと教養のない表現というか、妙に上品ぶった感じがします。female とか male は、はっきりと「雌、雄」という意味の場合と、単に男女の区別をする場合にもよく使います。気になるようなら、単に the women としてもいいでしょう。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（そこで歌う女性ボーカリストの姿）

「そこで歌う女性ボーカリストの姿」ですが「の姿」は省いていいでしょう。そこで「そこで歌う女性ボーカリスト」ですが、英語では「名詞(the female vocalists/ the women) + 関係詞節(who sang there)」です。

★「うっとりと」は in raptures でもいいですが enraptured も使えます。

★「見つめる」は gaze at ~です。

★「・・・ていたものである」は I used to…でもいいですが、いくらか感慨を込めているようなので would…の方がいいでしょう。

■彼女たちはまず水割りを飲む。(8805)

★「まず」は、副詞を使うなら first ですが、ちょっと弱いような気がします。They would start by having [drinking] ~がいいです。having の代わりに taking は、ここでは使えません。taking は何か非常に上品な感じというか、薬を飲むような感じを与えます。たとえば、かなりのお年寄りが I always take a small whisky before going to bed. と言うと、健康のために飲んでいるとか、あるいは洗練された習慣のような感じを与えます。なお、辞書では at first に「最初は [に]」と訳語を示しているので誤解しやすいのですが at first は「始めのうち」という意味です。e.g. She seemed at first to have forgotten him. (最初 (=始めのうち) 彼女は彼を忘れていた様子だった。)

★「水割り」は a whisky and water です。

■飲みながら、常連らしい客と楽しそうに言葉を交わす。(8805)

●「ながら」（暫時同時）

「飲み [ながら]」は「暫時同時」ですから as they drank が一番にいいと思います。while they drank も使えないことはありません。ただ、Drinking, they…は間違いとは言えませんがやめた方がいいです。というのは、前に置かれた分詞構文は、どういう〔関係性指標〕が省かれたのかわかりにくい上に、「・・・して [した] 彼らは・・・」という日本語の表現に対応して使われることが多いからです。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（常連らしい客）

「常連らしい客」は「連体修飾節（常連らしい）+体言（客）」ですから、英語では「名詞(customers)+関係詞節(who seemed to be regulars)」でもいいですが、「らしい」は、「自分が見て～じゃないかと思ったところの（もの・人）」と解釈すると what I took to be ~という表現を使うことが出来ます。つまり、what I took to be regular customers です。今まで使う機会がなかったのですが「～らしい」によく使う表現です。

★「楽しそうに」は cheerfully でもいいのですが、日本語では、たとえば、「副詞（じっと）+動詞（見る）」のように「副詞+動詞」の形で表現されているのを、英語では副詞の要素を含んだ動詞（たとえば、gaze）で表したり、副詞の内容を形容詞で表したりします。次の「言葉を交わす」と一体化させる方が英語的になります。

★「(楽しそうに) 言葉を交わす」は exchange words with ~という言い方があり、ここでは exchange cheerful conversations でもいいですが、最もふさわしいのは words の代わりに「感じはいいけどたいした内容はない会話」という意味の pleasantries (話を円滑にするために交わす儀礼的な言葉) という言葉を使うことでしょう。これを使って exchange pleasantries をするのが一番いいと思います。

■そして、ピアノ弾きやジャズメンと顔を見合わせてにっこりする。 (8805)

● [そして] (then)

日本語の「[そして]」は、大抵の場合 and で間に合うのですが、こここの「[そして]」は次にする動作の合図のようにもとれるので then の方がいいです。

★「ピアノ弾きやジャズメン」は the pianist and jazzmen です。

★「顔を見合わせる」は look at each other ですが、ここでは「一瞬視線を交わす」(exchange glances)とか「一瞬視線をとらえる」(catch the eye of ~)とかでしょう。

● [て] (動作順次)

「見合わせ[て]にっこりする」の[て]は「動作順次」です。 and でいいでしょう。

★「にっこりする」は smile です。

■それからやっとおもむろに喋りだすのだ。 (8805)

★「それからやっと」ですが、then はすぐ上ですでに使っているので、「それから+やっと」をひとまとめにして finally とします。

★「おもむろに」は「ゆっくりと」(slowly)ですが、「おもむろに」という副詞は第三者とか自分を客観的に見る場合などに使う言葉です。つまり、「彼はおもむろに立ち上がった」とは言いますが、「私はおもむろに立ち上がって」とは普通言いません。 言う場合は自分がゆっくり立ち上がるのを(ハードボイルドのように)客観的に見ているのです。簡単にいうと「ゆっくりと」より動作イメージが強いのです。したがって、ここでは taking their time の方がいいです。

★「喋りだすのだ」は would start to talk でも間違いではありませんが、情景が浮かんできません。日本語でもそうですが、いい文章というのは「情景が目に浮かぶように書く」という工夫が必要で、それは翻訳にも言えます。こここの「喋りだす」というのは、下に出てくる

ような「おきまりのセリフ（挨拶）を始める」ということでしょうから they would start their speech としたいです。なお、start の代わりに launch into にすると、ちょっと改まって話し出すという感じが出ます。

■それはたいていかすれ声だった。 (8805)

★「それは」は「その声は」ですから their voices です。

★「たいてい」は usually でいいでしょう。

★「かすれ声だった」は were hoarse でもいいですが、were husky の方がちょっとセクシーな感じも入ります。

■「みなさま、よくいらっしゃいました。ミスティー、第三回目のステージ……」(8805)

★「みなさま、よくいらっしゃいました」は Ladies and gentlemen, welcome to Misty でもいいし、あるいは、welcome to Misty の代わりに it's nice to have you here this evening と言うかもしれません。

★「ミスティー、第三回目のステージ……」は We now present tonight's third performance… でしょう。だいたい決まった言い方です。